

木材共販市況

共販事業では、9月までは入荷量の減少と夏場での材の傷みの影響を少なくするため、市を開催せず相対販売を実施しています。7月の共販での素材取扱量は1,210m³、買取販売では439m³を販売しました。

来月10月からの消費税増税前の駆け込み需要が見込まれ、現在特段大きな動きはないものの、今後、徐々に需要が増加してくるものと期待しています。

市況については、夏場は良質材の入荷が減少することから価格上昇の期待はできず、共販扱いの平均単価は8,700円/m³と昨年同月期に比べ若干下回る水準となっています。

今後は、バイオマス発電用のC材丸太価格については、概ね保合で推移するものと見られ、引き合いの堅調な土台、柱を主とした構造材を中心に相場上昇の牽引役を期待したいところです。

なお、例年加工用の小径原木の不足により、加工製品の供給に支障が生じることもありますので、今年も小径原木の早めの出荷を是非お願いします。

県森連林業センター 木材市況

平成30年7月19日

(単位：円)

樹種	長さ(m)	末口径(cm)	価格1m ³ 当り			気配	摘要	
			高値	中値	安値			
スギ	3.0	14	11,000	9,000	3,000	○	柱目3.5寸	
		16~18	12,000	10,000	4,000	○	// 4寸	
		20~	12,000	10,000	4,000	○	中目	
	4.0	11~13	10,000	8,000	4,000	○	母屋取り	
		14	10,000	8,000	5,000	○	桁目3.5寸	
		16~18	12,000	10,000	5,000	○	// 4寸	
		20~22	12,000	10,000	6,000	○	中目	
		24~28	13,000	11,000	6,000	○	//	
		30~	13,000	11,000	6,000	○	//	
	6.0	16~18					元玉選木	
20~22						通し柱4寸		
ヒノキ	2.0	30~	25,000	10,000	5,000	○	元玉	
		3.0	14	15,000	13,000	8,000	○	柱目3.5寸
			16~18	19,000	18,000	14,000	△	// 4寸
			20~22	19,000	17,500	14,000	○	中目
			24~28	18,000	16,000	13,000	○	//
	30~	20,000	15,500	13,000	○	元玉選木		
	4.0	11~13	10,000	9,000	8,000	○	母屋取り	
		14	14,000	11,000	8,000	○	土台目3.5寸	
		16~18	18,500	17,500	12,000	△	// 4寸	
		20~22	18,000	17,000	12,000	○	中目	
24~28		18,000	16,000	12,000	△	//		
6.0	30~	19,000	17,000	13,000	△	//		
	30~	35,000	25,000	15,000	○	元玉選木		
	20~22	35,000	25,000	20,000	○	通し柱4寸		
						// 5寸		

注)売上総数量1,210.347m³

△ 強気配 ○ 保合 ▼ 弱気配



発行所
 秦野市菖蒲317番地
 神奈川県森林組合連合会
 総務指導課
 電話 0463-88-6767
 ホームページ <http://www.kenmoriren.jp/>

森林環境税・森林環境譲与税(仮称)の創設を決定

一 新設の目的

平成30年度の税制改正大綱において、森林環境税・森林環境譲与税(仮称)が創設されることとなりました。今回の新たな税は、

① パリ協定の枠組みの下、わが国の温室効果ガス排出削減目標と災害防止を図るため、地方財源を安定的に確保する。

② 市町村が主体となって「新たな森林管理システム」を導入・運用するための財源を確保する。の二点を理由として創設されます。

森林環境税は国税として平成36年度から納税者一人当たり一千元を徴収し、森林環境譲与税は徴税に先行して平成31年度から市町村等に対して譲与が開始される予定です。

二 新税の使途

森林環境譲与税の使途は、当初

の検討過程では間伐などの森林整備に限定されていましたが、最終的に人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発などが追加されることになり、神奈川県への譲与額は当初の試算で一億八千万円程度であったものが十四億五千万円程度に増加される見込みとなり、それぞれの市町村に交付される額の範囲内で地域の実情に応じた取組が実施されることとなります。また、神奈川県がこれらの取組みを行う市町村の支援等も対象となっています。

一方、神奈川県では平成19年度から独自に個人県民税の超過課税(水源環境保全税)により、水源環境保全・再生を目的とした間伐などの森林整備を進める水源の森づくり事業の推進や地域水源林整備の支援などの特別対策の取組が実施されています。



新たな税の使途と重複する部分がありますが、エリア分けをするなど水源環境保全税との両立を図り、相乗効果により神奈川県全域の森林整備が進むことが期待されます。

三 新たな森林管理システム

国では森林整備に関して森林所有者に森林管理の責務を規定し、採算に合う森林については、森林所有者が自ら森林に対してその責務を果たすよう促し、管理意欲のない森林所有者に対しては、森林の「経営管理権」を市町村に移譲し、市町村は意欲と能力のある森林経営者に「経営管理実施権」を設定する一方で、自然的条件に照らし森林経営に適さない森林に対

四 系統の責務

森林環境譲与税は、市町村に直接交付され、使途に合致した様々な取組が市町村によって実施されていくこととなります。しかし、限られた人員で多くの業務をこなしている市町村が、こうした新たな取組に対応できるのかと心配する声が多く聞かれます。そのため、市町村の林政を支援する協力体制を県や市町村、そして森林・林業関係団体等で構築していくことが不可欠です。

そのため、地域の森林の状況や森林所有者の情報を把握し、森林整備のノウハウを有して、木材の生産にも取り組んでいる森林組合系統が、市町村の業務を支える体制の一員として、新たな森林管理システムの運用や税を活用した新たな取組に積極的に関わっていくことが、地域の森を守り・育てるプロ集団としての責務であり役割であると思います。



建設中の横須賀バイオマス発電所

チップ生産に向けての準備

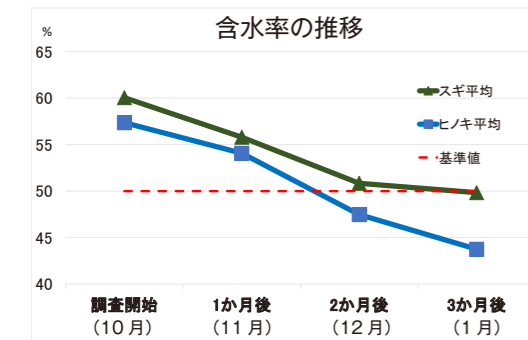
来年秋の操業に向け、横須賀バイオマス発電所（株式会社 横須賀バイオマスエナジー 横須賀市浦郷）の建設が進められています。発電量は6,950 km/hrで、剪定枝を主燃料に間伐材やFRP（廃プラ）などを使用する「都市型バイオマス発電」を目指しています。

本会は、すでに横須賀バイオマス発電所との間で燃料となるチップを供給する協定を締結しています。このため、間伐材をチップにして供給するための準備を進めており、平成30年3月にチップパー（中古）を購入しました。

また、発電所にチップを納入するにあたっては、含水率を50%以

下まで落とす必要があります。そこで昨年、丸太の含水率調査を行いました。調査方法は、林業センターに納入された300本（43m）のスギ、ヒノキの丸太を井桁に組み、その内の19本を無作為に抽出して、1ヶ月ごとに4回その重量を計測し、材積や比重から含水率を推計しました。

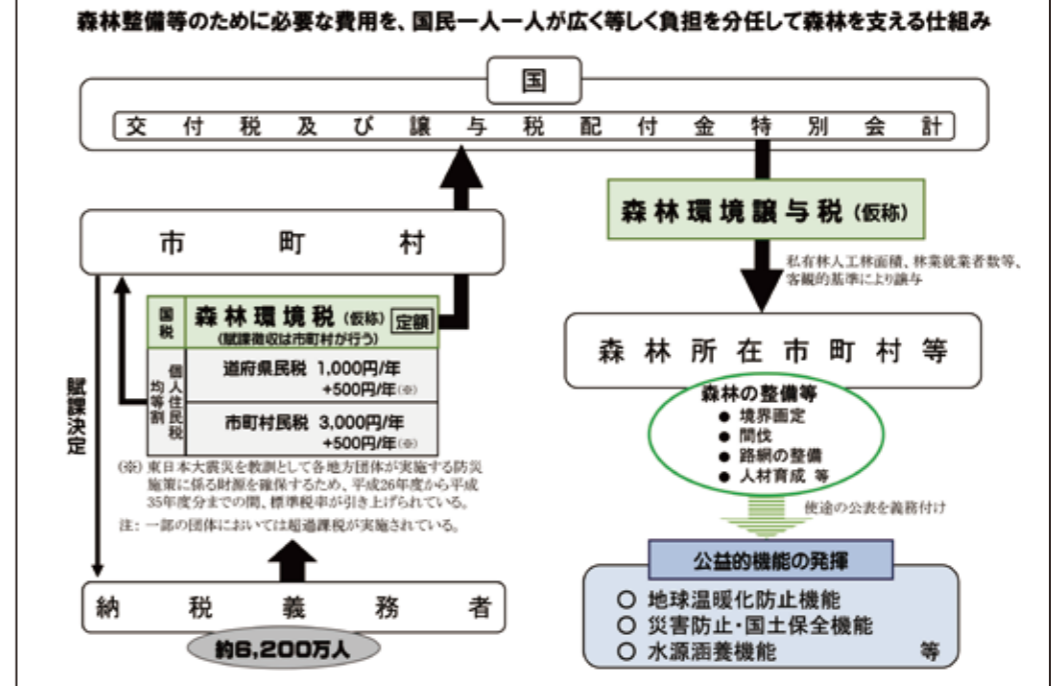
その結果、計測開始時には平均含水率がスギ60%、ヒノキ57%であったものが、2ヶ月後には、それぞれ51%、47%となりました。調査に使用した丸太は、夏から秋にかけて伐採されたもので、伐採されたから、4〜5ヶ月が経過しています。こうした調査をもとに、チップ化する適期を見極めて



スギ、ヒノキ丸太約 300 本を写真のように井桁にはい積みして、そのうち無作為に選んだ 19 本について含水率を 1 か月ごとに 3 か月間測定した。

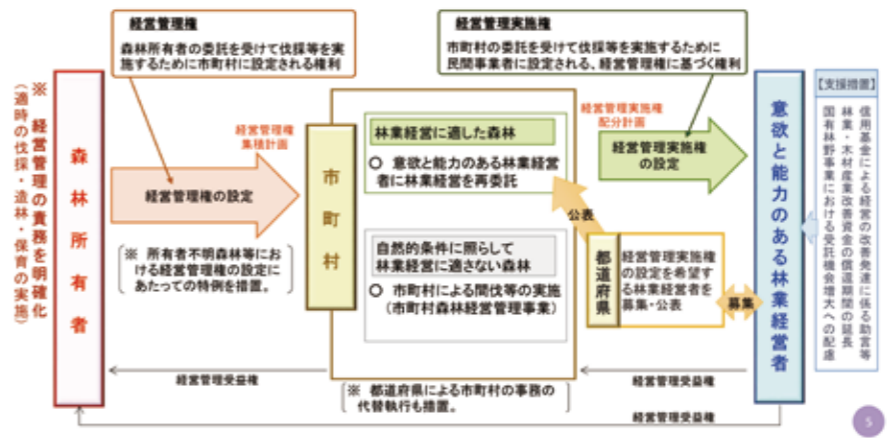
いきたいと思います。さらに、今年度、チップのストックヤードやチップをトラックに積込むためのステーションを造るとともに、チップの安定供給に向けた間伐材の供給体制の整備を行い、来年度からの本格稼働に備えてまいります。

(参考) 森林環境税(仮称)の制度設計に関する提案のイメージ



新たな森林管理システム(森林経営管理法案)の概要

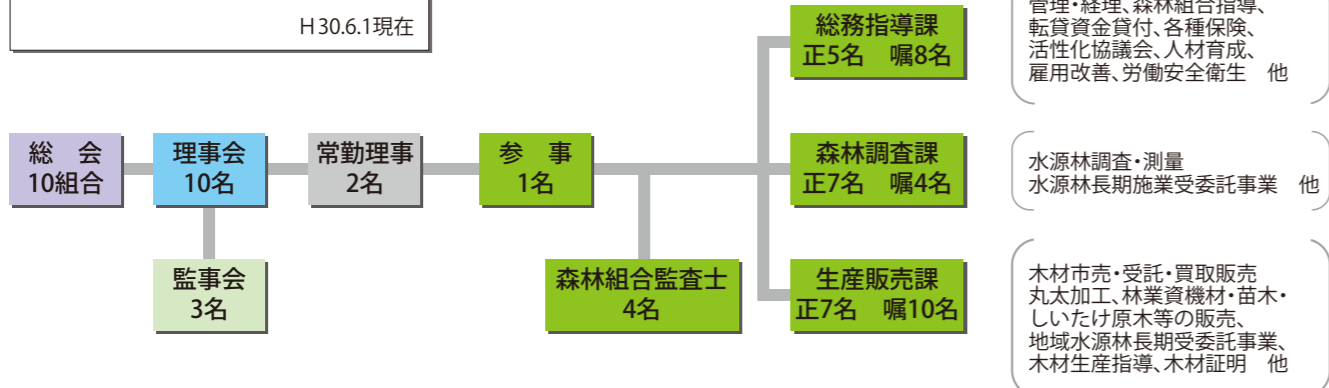
- ① 以下の措置を基本とする新たな森林管理の仕組みを講ずる。
- ② 森林所有者に適切な森林管理を促すため、森林管理の責務を明確化するとともに、森林所有者自らが森林管理を実行できない場合に、市町村が森林管理の委託を受け意欲と能力のある林業経営者に再委託する。
- ③ 再委託できない森林及び再委託に至るまでの間の森林においては、市町村が管理を行う。



(出典 林野庁)

神奈川県森林組合連合会組織図

H30.6.1現在



長期施業受委託事業 今後の課題

確保予定森林の所有規模が小さくなり、これらの森林の所有者を特定しながら同意を取り付けて契約までもっていく作業は、これまでに手間暇を必要としていました。

一方、まとまった面積の人工林があっても集材後の運搬において、4tトラックの利用が不可能な立地条件にある箇所にあっても、確保したとしても経費が高み実行が難しいというところが出てきています。

また、この事業が始まってから7年目を迎え、事業費に占める整備費の割合が徐々に大きくなってきています。ちなみに一昨年の確保費と整備費の割合はほぼ同じでしたが29年度にあつては4対6と整備費が確保費を上回る結果となりました。今後も整備費は右肩上がりです。今後、集約化を進め、財源としての水源環境保全税の毎年度の予算額には限りがあります。このため、集約化を進め、森林経営計画を樹立して国の造林補助金をプラスして活用し、契約地の森林を適切に整備していくことが求められています。

【森林調査課】

組合探訪

木製品等の販売促進

「厚木市森林組合には様々な木工製品や製材品が並んでいます。組合の取組について杉山代表理事専務にお話しをお伺いしました。」

Q「木宝館（きほうかん）」を始めたきっかけはなんですか。



以前より、事務所の入っている建物は「木宝館（もくもくかん）」と呼ばれ、県産木材販売促進センターとしての機能を兼ねていました。

「木宝館」の利用拡大を目的に館内を整備し、木工品の品揃えを充実したところ来館者が増え、木工品の売上げが増加しました。

そこで、製材品の販売促進を図るため、資材倉庫として使用していた建物を整備・改装し、製材品の品揃え強化に取り組みました。

改装を機に、新しい資材倉庫にも相応しい名前をつけたらどうかということになり、職員よりアイデアを募って検討し、昨年の秋に「木宝館」と名付けました。「木宝館」は木工製

品の直売所、「木宝館」は製材品の直売所と位置づけられています。

Qどのような製品がありますか。

木工製品ではイス・テーブル・まな板・プランター等、いろいろありますが、一押し商品は生ごみ処理機「厚木キエーロ」です。昨年度、厚木市環境政策課が20台を一括購入し市民の方にモニターで使用してもらい、評判は上々です。今年度からは購入した市民に厚木市から助成を受けられる制度が始まり、それがタウン誌にも紹介されヒット商品となっております。市役所のロビーの他、市内の各公民館に設置・展示を進めています。

また、厚木市の依頼で製作した駐輪用の木製サイクルラックを市内のコンビニエンスストアや温泉旅館に設置しました。それを見た市外の公園事務所などから問い合わせを受け、同製品の注文につながりました。

製材品については、通常の板材はもちろん、丸太半割など素材を生かした材取りをして森林組合ならではの



木宝館の外観



黒土を入れ生ごみ処理する「厚木キエーロ」

の独自性のある製材品も取り扱っています。

Q1日の組合の利用者はどのくらいですか。

1日に10名〜20名くらいは訪れているのではないかと思います。利用者は市民の方が中心ですが、温泉や観光帰りと思われる市外の方も飛び込みで寄っていかれます。

Q「木宝館」や「木宝館」の取組が、組合の他の事業へのPR効果につながりましたか。

事務所の外に幟旗や看板を出して宣伝をしているので、例えば、一般の方からの庭木等の伐採の仕事の依頼も増えているように感じます。

Qこれからのようにしていきたいですか。

「木宝館」の特徴的な建物の外観を活かしつつ、館内の展示・直売コーナーを大幅に改装する予定です。

間伐材の利用を増やし、「自分達で間伐した木を自分達で製材・加工し

協同組合 体験・交流学校の開催

平成30年6月9日（土）神奈川県協同組合連絡協議会主催の「地産地消現地学習会」神奈川の林業を学ぶ「う」を開催しました。

入梅ながら好天に恵まれ、協議会のアドバイザーである田代名誉教授を始め5組織の組合員・役員計20名の参加がありました。

渋沢駅を出発し秦野市のヤビツ峠に近い水源林長期施業委託契約地で秦野市森林組合の鈴木課長代理より「植栽」「下刈り」「間伐」「作業道開設」「鹿柵」等、林業の説明を受けながら実際の伐採作業を見学しました。現場の急斜面に設置された鹿柵や、受口・追口を作り思った方向に



木が倒されるのを見て、参加者の皆さんとても感心された様子でした。

続いて、県内で唯一の原木市場である本会（神奈川県森林組合連合会）の運営する林業センター（秦野市菖蒲）で、力石生産販売課長より県内各地から運ばれてきた丸太が集積され林業センターで入札等によって製材業者に販売されていく過程や木材価格の現状について、また丸太は材積（m³）で取引されていること、県内だけでなく、県外の製材業者にも販売されていることなどの説明がありました。

次にJAはだの「じばさんず（農産物直売所）」で地元の農産物を購入したのち、厚木市七沢にある（株）市川屋のプレカット工場を見学しました。これまで、建築現場で大工さんの手でしか行えなかった表面加工や「ほぞきり」を2台のロボットを新たに



市産材の学習机を寄贈

伊勢原市森林組合は3月22日に農林中央金庫の支援を受け、市立大山小学校に市内産のスギ材を使った



お問い合わせ
厚木市森林組合

（平日8:00〜17:00）

※オーダーメイドや製材品のカット等の要望にも対応可

所在地 神奈川県厚木市七沢237

電話番号 〇四六―二四八―〇〇五

e-mail forest237@atsugi-shirin.jp



高山市長、有田中金部長、平田組長

学習机35台を寄贈しました。

スギ材は軽くて扱いやすいものの、傷つきやすく強度が不足することから、そのままでは机の天板として利用することが難しい素材です。そこで、神奈川県産スギ材天板を使用した学習机の作成に取り組みました。

組合としては、この学習机を将来的には県内各市町村で導入していただき、子供たちや保護者の皆様に丹沢や身近な自然に興味を持っていただくきっかけとしていきたいとの思いから、制作過程や品質管理にこだわりました。

実際の製造過程は、まず伊勢原市内のスギ人工林を当組合で間伐し、直接地元材木店に持ち込み製材乾燥、県内に小口の集成材を作れる工場が少ないことから、千葉県内の会社にお願いで原板を作成。そこからベツト樹脂加工を行っている広島ของบริษัทに送り、愛知県で机の脚部と組み合



わせ、学習机として小学校へ寄贈しました。県内初めての試みであり、関係者が各地に点在していることから、調整に多くの時間がかかりましたが、皆様のご協力により、なんとか納得のいく製品ができたと思っております。

また、寄贈式に合わせて天板を作成した木材と同じところで育った木材を利用したペン立てを、自ら作成することによって、より身近に森林・環境を感じてもらえるよう木育活動も実施しました。

実際に机を使った子供たちの声を聴かせていただいたところ、「白いところが、茶色いところがあって、色がいい」「節の模様が見えていい。節があっても、つるつる。」など、大変うれしいコメントをいただきました。今後は、是非横浜川崎など都市部での利用拡大を目指したいと思っております。

導入することにより、その7割程度を加工することができることになったとの説明がありました。ロボットにより加工されていく工程を見て、皆さん驚いていました。(株)市川屋では、公共建築物等木材利用促進法の制定以降、県産木材の需要が増えていくということです。

最後に今回の学習会について感想や意見を聞いたところ「個人ではなかなか見ることができない伐採現場からプレカット工場までの一連の流れが分かった」、「林業の抱える問題が分かった」、「県産木材を利用した建築まで一連の工程が見られればもつと良かった」などの意見がありました。

この学習会を通じ、神奈川の林業や神奈川県産木材について知ってもらい、少しでも関心を持っていただけたなら幸いです。

**神奈川県森林組合連合会
森林整備作業班奮闘記**

昨年の4月に作業班は鈴木(林業8年目)・石川(林業5年目)・矢後(林業1年目)の3名で結成されました。班員2名は緑の雇用による集合研修や資格取得に年間20日以上参加した中で、箱根及び湯河原の二箇所で開催された研修会に参加しました。

鈴木さんは経験があったこともあり、作業道開設と集材・運材のオペレーターを担当し、石川さんは持ち



前の慎重さと応用力を見込んで伐倒及び造材担当としてハーベスタやプロセッサのオペレーターを担当しました。矢後さんは1年目ということもあり、チェーンソーによる伐倒と造材及び集材の荷掛けを担当しました。

昨年、箱根の現場に入ったときは、ちょうど記録的な長雨の影響があり、県内の丸太の出荷が滞り、加工用小径木のストックが底を尽き掛けましたが、加工担当の職員と一緒に、搬出・運搬を行い、優先的に多くの小径木を出荷しました。また、箱根特有の火山灰土壌は雨で水分を含むとドロドロ状態となり、グラップルがスタックしたりフォワーダの履帯が外れるなどのトラブルもありましたが、雪が降る直前に作業を終えることが出来ました。

湯河原の現場では90年生と高齢級

で更新時期を迎えたヒノキ林において、群状間伐を行い植栽を実施しました。あまりの重さに全木集材が出来ず、元玉をチェーンソーで落とさざるを得ませんでした。二番玉以降は0.45㎡のプロセッサを使用し、360㎡を2ヶ月で搬出することができました。

【生産販売課】



「緑の雇用」研修を修了して

神奈川県森林組合連合会【石川 聖】
現在、神奈川県森林組合連合会の作業班に所属し、知人の紹介で林業に携わり5年目になります。
緑の雇用で得られたものは数多く

ありますが、特に次の二つのことがこれからの私の大きな財産になると思います。一つは林業の基礎知識が無かったので、作業技術・作業に関する安全・森林に関する法律や森林調査の方法や、林業に必要な資格を研修期間中に取得する事が出来たことです。二つ目は研修の「同期」に出会えた事です。神奈川の林業界では良きライバルでもあり、また情報交換や苦悩などを気軽に話せる仲間にもなりました。

研修中は3年が長く感じましたが研修を終えてみると、なんだか寂しさもあります。

現在では搬出の技術等のスキルも身に付き後輩も出来ました。これからは緑の雇用の卒業生として恥ずかしくないよう、後輩の育成や林業界の一員としてより一層知識と技術の向上に努めていきたいと思っています。



NEEMFAUCM

厚木市森林組合 【職名】 技師補

■ 由水 信大

【平成29年9月1日付採用】

【年齢】 43歳

【趣味】 カメラ・園芸

かながわ森林塾卒業後、同組合作業班員として、平成24年4月より山の仕事に従事し、5年間、森林整備を中心に、伐採等の経験を積んだのち、平成29年9月より、同組合職員として、製材業務に転向。現在は、井上親方(主任)に仕事を指導して頂きながら、日々勉強中です。

また、厚木市内を中心に、伐採・造園業務も担当しています。

一日も早く、井上親方の技術を引継いで、仕事ができるよう、日々経験を積んでいます。



小田原市森林組合 【職名】 技師

■ 山室 文哉

【平成30年4月1日付採用】

【年齢】 22歳

【趣味】 映画鑑賞

出身は小田原市江之浦です。物心つく前から小田原の海と森林とみかん畑に囲まれ育ちました。

大学は両親の母校である東京農業大学へ入学しました。大学では、測量学から森林GIS、環境学学生として勉学に励みました。現在職場では、大学では学ぶことができない仕事の連続です。早く仕事に慣れ、仕事を覚えることで、丁寧な仕事を行っていく所存であります。

最後になりますが、小田原市森林組合共々よろしく願っています。



神奈川県森林組合連合会 【職名】 技師

■ 籠島 直

【平成30年4月1日付採用】

【年齢】 22歳

【趣味】 自転車、動画視聴

高校での選択授業をきっかけに林業に興味を持ち、そこから過去の拡大造林による日本の森林の現状を知り少しでも森林環境を良くしたいと考え、大学で4年間林業や森林について学び当連合会に入会致しました。

県森連では長期施業受委託を担当しております。未だに分らないことも多々ありますが、森林調査課の先輩方をはじめとする皆さんの方々のご指導の元、地道に努力を積み重ねて自分のできることを一つでも多くしていきながら日々精進してまいります。何卒よろしく願います。



**神奈川県森林組合連合会
役員の変更**

- 代表理事会長 小泉 清隆
- 副会長 平田 光一(新)
- 代表理事専務 服部 俊明
- 常務理事 谷 善造
- 理事 今井 栄
- 理事 鈴木 碩鎮
- 理事 山口 清(新)
- 理事 木藤 一郎(新)
- 理事 佐藤 治男(新)
- 理事 高野 進(新)
- 代表監事 北村 眞佐雄
- 監事 神崎 英男(新)
- 監事 井田 義人(新)

単位森林組合

組合長の変更

- 清川村森林組合 高野 進
- 愛川町森林組合 木藤 一郎
- 南足柄市森林組合 鈴木 碩鎮